

1 題材名 奥行きを感じて

2 題材の目標

絵画作品の空間表現に関心をもち、遠近法を視点としたよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう。

3 題材について

(1) 題材観

本題材では、遠近法の理解を視点として絵画作品を鑑賞する活動を行う。高等学校学習指導要領芸術の美術I「B鑑賞」Aでは、「美術作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深めること。」と示されている。本題材は様々な遠近法を用いた絵画作品を鑑賞し、グループ活動を通して、遠近法の種類やその効果を話し合うことを通して、作者の心情や意図と表現の工夫に迫りたいと考える。

(2) 生徒の実態

本校の第1学年*・*組の美術Iを選択した生徒は、美術の授業で与えられた課題に対して真面目に取り組んでいる。美術の鑑賞に関するアンケートの結果では、*人中*人の生徒が小学校、中学校の時に鑑賞の授業を経験し、美術の鑑賞に対して*人の生徒が興味・関心を示している。また、作品のよさや美しさを感じ取ることができるかと答えた生徒は*人にも及んでいる。しかしながら授業中の鑑賞活動では、作品と深く向き合い、理解を深めることを苦手とする生徒の姿が見られる。アンケートでは、*人の生徒が作品を鑑賞する際、友人と話し合う機会があると答えているが、授業の中で自発的に作品に関する意見を述べることや、積極的に意見交換をする姿はあまり見られないため、能動的に作品のよさや美しさ、表現の工夫などを感じ取れるような手立てが必要であると考えます。

(3) 指導観

生徒の実態から、まず導入の場面で、遠近法を視点としたクイズ形式の課題を実施することで題材への興味・関心を高め、作品と深く向き合うことの一助とする。次にアートカードを用いて、遠近法の分類を行うなど、グループでの言語活動を取り入れ、遠近法がもたらす視覚効果の確認と意見交換を行い、各々の作者がどのような意図を持って遠近法を用いたのか考察し作品への理解を深める。以上の活動を通して、本時のねらいとする作者の心情や意図と表現の工夫に迫ることができると考える。

4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
・絵画作品の空間表現に関心をもち、主体的に作品に対する理解を深めようとしている。	・絵画作品のよさや美しさ、作者の心情を感じ取り、作品などについて理解を深めている。

5 指導と評価の計画（1時間扱い）

時	学習活動	評価の観点		学習活動に即した評価規準 ()は評価方法
		関	鑑	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・遠近法を視点としたクイズ形式の課題に取り組む。 ・アートカードを用いて遠近法の分類をする。 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・絵画作品の空間表現に関心をもち、主体的に作品に対する理解を深めようとしている。 (観察)

<ul style="list-style-type: none"> ・遠近法を用いた作品を鑑賞し、ワークシートに気付いたことなどを記入する。 ・グループで感想の意見交換をし、数グループ発表する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画作品のよさや美しさ、作者の心情を感じ取り、作品などについて理解を深めている。 (観察、ワークシート)
--	---	---

6 本時の学習

(1) 目標

絵画作品の空間表現に関心をもち、遠近法を視点としたよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう。

(2) 準備・資料

教師：アートカード、ワークシート、パソコン、プロジェクター

生徒：筆記用具、教科書

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点 ◎評価（評価方法）
1 遠近法を視点としたクイズ形式の課題に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式を用いた課題に取り組むことで、生徒が興味・関心をもてるようにする。
2 本時の学習課題の確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 奥行き表現をもとに、絵画作品のよさや美しさを感じ取ろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を明確に示すことで、活動の見通しをもてるようにする。
3 アートカードを用いて遠近法の分類をする。 〈線遠近法〉 <ul style="list-style-type: none"> ・レオナルド・ダヴィンチ『最後の晩餐』 ・クリヴェリ『聖エミディウスのいる受胎告知』 〈空気遠近法〉 <ul style="list-style-type: none"> ・長谷川等伯『松林図屏風』 ・カミーユ・コロー『モルトフォンテーヌの思い出』 〈その他〉 <ul style="list-style-type: none"> ・狩野元信『洛中洛外図屏風』(部分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に遠近法を用いた絵画作品を選定し、グループ数分のアートカードを準備しておく。 ・アートカードで用いる作品は線遠近法、空気遠近法を用いた作品を2つずつ用意する。また、生徒がより深く考察できるよう遠近法を用いていない作品も用意する。 ◎絵画作品の空間表現に関心をもち、主体的に作品に対する理解を深めようとしている。 (観察)
4 教師の説明を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・線遠近法(透視図法) ・空気遠近法 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の分類の仕方を取り入れて説明をする。 ・プロジェクターを用いて視覚的に分かりやすく解説する。 ・記入が進まない生徒に対しては、つまずきの原因を聞きながら、作品についての思い、考えを引き出す。
5 遠近法を用いた作品を鑑賞し、感想を記入する。また、グループで感想の意見交換をし、数グループ発表する。	◎絵画作品のよさや美しさ、作者の心情を感じ取り、作品などについて理解を深めている。 (観察、ワークシート)
6 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の予定を伝え、本時で学習したことや気付いた点をこれからの制作に生かしていくように呼びかける。